
いっつぁしょうたいむ！

裁きの龍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

いつつあしうたいむ！

【Nコード】

N5361Z

【作者名】

裁きの龍

【あらすじ】

とある理由で遊戯王GXの世界に転生した主人公。またり生きてる中で、なんか色々おきてます！？
ちよっぴりシリアス&ラブ？な物語。

なんかワンキルしてました（前書き）

小説を書くのはまだ慣れていないので、暖かい目で見ていただけると幸いです。

なんかワンキルしました

side ???

「ふう…ここが試験会場か…」

最近流行りの二次創作。まさか自分が当事者になるとはな…しかも転生モノ。死ななきゃいけない。

文面から見てのとおり、俺は一回死んでいる。つまり、お前はもう死んでいる状態な訳だ。（意味わからん）んで、奇跡的にどつかの神様に拾っていただいて、ここ、遊戯王GX（半ば強制的。神様は忙しいらしい。）の世界にやって来たと言うことだ。まあ、気に入ってるからいいけど。ただ、原作知識が曖昧なんだよな…俺は漫画派だったから。さ、とりあえず筆記試験受けるか。

あ、そうそう、他にも何人がトリップして来た奴らがいるらしいから接触するか。見つかり次第。

さあ、筆記試験筆記試験！

一時間後

………ひでえ。社長ひでえ。途中まで普通の筆記試験だったのにいきなり青眼の白龍の攻撃力、守備力、種族、属性、説明文を答えるとか究極嫁の攻撃力、s（ry ま、あの程度なら楽勝でしょ！おっと、俺の自己紹介がまだだったな。俺の名前は流川伽弥転生前は19歳、今は15歳だ。使うデッキは…後でわかる。自己紹介はこんなもんかな。試験結果でも見に行くか。番号は…6番か。もう少し良い成績が良かったな。さてと、実技試験に備えて、デッキ調整でもするか。

一時間後

よし、OK!! 他の人の決闘も見てみるか。

「《豊穰のアルテミス》でダイレクトアタック」

「ぬわっ…」

「勝者、一番涼川奏!」

「一番? 一番って、三沢、もといエアーマンじゃないのか?」

それにしても《豊穰のアルテミス》か…パーミッションかな。なるべく決闘りたくはない相手だな。

「次! 二番、三沢大地!」

「はい!」

おお、三沢は二番か…さてよ。原作と違うと言つことは…あの涼川
って奴は、俺と同じトリッパーって事か?

後で接触するか。仲間は多い方がいい。

15分後…

「次! 6番! 流川伽弥!」

「はい」

ついでに言つと、俺は無口な方…だと思う。

相手は…お馴染みグラサン試験官か。

「君が6番かね?」

「はい」

「よし、ならば決闘を始めよう。」

「よろしくお願いします」

「「決闘!!!」」

試験官LP4000

伽弥LP4000

「先攻は私がもらう。ドロー!」

やつぱ早いもん勝ちかよ。先攻ぐらい譲れつてのグラサン試験官w
「私は不屈闘士レイレイを召喚!! 更に二重召喚を発動し、ゴブリ
ン突撃部隊を召喚!! さらにゴブリン突撃部隊にデーモンの斧を装

備してターンエンド!!」

《不屈闘士レイレイ》

地／4／獣戦士／2300／0効果

このカードは攻撃した場合、バトルフェイズ終了時に守備表示になる。次の自分ターン終了時までこのカードは表示形式を変更できない。

《ゴブリン突撃部隊》

地／4／戦士／2300／0

効果

このカードが攻撃したら、バトルフェイズ終了時に守備表示にする。次のターンこのカードの表示形式は変更できない。

《デーモンの斧》

装備魔法

攻撃力1000アップ。このカードが墓地に送られたら、自分フィールド上のモンスターを一体生け贄に捧げてこのカードを自分フィールド上のモンスターに装備することができる。

ほう…下級デメリットアタッカーが二体。問題ないな。この手札ならワンキルだ。

（あいつ終わったな）

（可哀想に…）

（すげえ…）

（おい、自重しろよ）

は？ナニITTテンノ？伏せカードなし、手札二枚、（あんまかんけない）の相手に。ネタ発言は無視！！いちいち突っ込むほど俺は暇じゃない。さあ、反撃開始だ！

フィールド

試験官LP4000

不屈闘士レイレイ

ゴブリン突撃部隊

デーモンの斧（ゴブリン突撃部隊に装備）

伏せ0

手札2

「俺のターン！！ドロー！俺は苦渋の選択を発動！俺はライトロードビーストウォルフ、ライトロードマジシャンライラ、ライトロードウォリアーガロス、ライトロードモンクエイリン、ライトロードパラディンジェイン！」

さあ、読者n「メタ発言禁止！by作者」ふう、俺のデッキはライトロードだ。色んなライトロードの派生系使うからヨロシク！今回？ガチだよ。負けるわけにはいかないから。おっと、決闘中だったな。

「私は、ライトロードビーストウォルフを選択する。」

「了解」

まあ、当然か。しかし、いい手札だ。決めるか。

「俺の墓地に存在するライトロードの種類は4種類！」

「だからなんだと言うのだね！」

お、今のム○カっぱい

「天駆ける光の道から生者を導きにやって来る！裁け！！裁きの龍！！！」

そして出てくる裁きの龍。俺のエースカードだ。しかし、ソリッドビジョンで見ると迫力あるね。さすが。

《ライトロード・モンク エイリン》

光/4/戦士/1600/1000効果

このカードが守備表示モンスターを攻撃した場合、ダメージ計算前にそのモンスターをデッキに戻す。このカードが自分フィールド上に表側表示で存在する限り、自分のエンドフェイズ毎に、自分のデ

ツキの上からカードを3枚墓地へ送る。

《ライトロード・パラディン ジェイン》

光 / 4 / 戦士 / 1800 / 1200 効果

このカードは相手モンスターに攻撃する場合、ダメージステップの間攻撃力が300ポイントアップする。このカードが自分フィールド上に表側表示で存在する限り、自分のエンドフェイズ毎に、自分のデッキの上からカードを2枚墓地に送る。

《ライトロード・マジシャン ライラ》

光 / 4 / 魔法使い / 1700 / 200

効果

自分フィールド上に表側攻撃表示で存在するこのカードを表側守備表示に変更し、相手フィールド上の魔法または罠カード1枚を破壊する。この効果を発動した場合、次の自分のターン終了時までこのカードは表示形式を変更できない。このカードが自分フィールド上に表側表示で存在する限り、自分のエンドフェイズ毎に、自分のデッキの上からカードを3枚墓地に送る。

《ライトロード・ウォリアー ガロス》

光 / 4 / 戦士 / 1850 / 1300 効果

自分フィールド上に表側表示で存在する「ライトロード・ウォリアー ガロス」以外の「ライトロード」と名のついたモンスターの効果によって自分のデッキからカードが墓地に送られる度に、自分のデッキの上からカードを2枚墓地に送る。このカードの効果で墓地に送られた「ライトロード」と名のついたモンスター1体につき、自分のデッキからカードを1枚ドローする。

《ライトロード・ビースト ウォルフ》

光 / 4 / 獣戦士 / 2100 / 300

効果

このカードは通常召喚できない。このカードがデッキから墓地に送られた時、このカードを自分フィールド上に特殊召喚する。

《裁きの龍 (ジャッジメント・ドラグーン)》

光 / 8 / ドラゴン / 3000 / 2600

効果

このカードは通常召喚できない。自分の墓地に「ライトロード」と名のついたモンスターカードが4種類以上存在する場合のみ特殊召喚する事ができる。1000ライフポイントを払う事で、このカードを除くフィールド上のカードを全て破壊する。このカードが自分フィールド上に表側表示で存在する場合、自分のエンドフェイズ毎に、自分のデッキの上からカードを4枚墓地に送る。

「裁きの龍の効果発動！1000LPを払い、このカードを除く全てのカードを破壊する！！ジャッジメント・オブ・セイント！」

裁きの龍が大きく咆哮する。すると、レイレイや突撃部隊が破壊された。今気づいたが、ゴ布林突撃部隊がデーモンの斧を装備する時って、先頭だけか。虚しい。

「なんだと！」

伽弥LP4000 3000「さらに、ライトロードサモナールミナスを召喚！！」

《ライトロード・サモナールミナス》

効果

光 / 3 / 魔法使い / 1000 / 1000

1ターンの1度、手札を1枚捨てる事で自分の墓地に存在するレベル4以下の「ライトロード」と名のついたモンスター1体を自分フィールド上に特殊召喚する。このカードが自分フィールド上に表側表示で存在する限り、自分のエンドフェイズ毎に、自分のデッキの上からカードを3枚墓地に送る。

「な…そんな…」

「俺の勝ちだ！裁きの龍とライトロードサモナールミナスでダイレクトアタック！！ジャッジメントパニッシュ！サモンディストラクション！」

試験官LP4000 10000

試験官のLPを0にすると同時に、歓声があがった。まあ、逆転勝ちだからな。さてと、かえって寝るか。

side奏

へえ…あの人も私と同じかな？後でコンタクトとろうかしら。

side???

あ、あの人もボクと同じトリッパーかな？アカデミアで会えるていいな

side???

や、あれは伽弥！伽弥も来てたんだ！あ、呼ばれちゃった。あとで会いに行こー

side???

お、伽弥じゃねえか。知り合いがいるとなると頼もしい。出来る限

り早く連絡とるか。

side 伽弥

・・・ん？まてよ？よく考えると、俺柄にもなく叫んでるじゃねえか！？恥ずかしい…

まあ、楽しかったからいいけど

この転生物語は…まだ…続く…第零話 終

なんかワンキルしました（後書き）

はい、色々伏線張っていて終わります。更新の速度は期待しないでください。ではリランでした！

く出逢いく かゝるのお！？（前書き）

遅くなつてすいませんでした！

期末テストとかで忙しかったもので…

では！第0―2スタート！！

く 出逢い く か ら の お ! ?

side 伽弥

「おい」

ん？誰だ？この辺りに人はいないから…俺か。

振り向いてみると、三沢、翔、ほたゝ…もとい十代がいた。

「なんだ？」

「凄かったぜさっきのデュエル！」

「そうか。そいつはありがとな。」

「ところで、その後ろにいるのは…」

「どうした十代？なんもないぞ？」

「そっか…」（気づいてないのか。）

「ところで流川…でいいのか？」

「いや、伽弥で頼む。そっちの方がなれてるからな。」

「わかった。伽弥、でいいんだな？」

「ああ、そっちで頼む。ヨロシク三沢。」

「あれ？伽弥クンなんでアニキと三沢クンの名前知ってるんすか？
やべ…！」

「ぐ、偶然お前らの決闘を見てたからな。お前の名前、聞いていいか？」

「僕は翔つす！ヨロシクつす！」

「ああ、よろしく。」

「じゃあな。一人の時間を邪魔して悪かった。アカデミアで会おう。」

「三沢っていいやつだな…伽弥さんびつくり。」

「ああ。アカデミアで。」

「「じゃあなー！（つす！）」」

さて、日も暮れてきたし、帰る「伽弥…！」こ…この声は…！…！
「びつくりした！伽弥もココ来てたんだ！」

「ああ…お前もか。葵。」

こいつの名前は篠原葵。言っちゃあなんだが、幼馴染みだ。幼馴染みだからと言うだけで羨ましがられるが、実際にはあまり喜ばしくはない。何より葵は…凄まじくエロいのだ。しかも妙に俺になついている。こうしている内にも…

「って、どこに手を伸ばしている！ベルトに手をかけるなトランクスの中に手を入れようとするな！」

この様に一緒にいるだけで俺の貞操が危うくなる。

「いいじゃーん減るもんじゃないし。伽弥がない間、寂しくて寂しくてびしょびしょだったんだよ？」

「それは涙であると信じたい！」

「あ、そうだ。聡も来てるらしいよ？」

「本当か？良かった良かった…」

聡がいるのなら安心だ。何せ一家に一台聡くんだからな。

「アカデミアで会えるといいね。じゃ、ばーいばーい！」

はあ…一体何しに来たんだあいつは…

「ねえねえ、伽弥くん、で、いいんだよね？」

「おわ！誰だ！？」

「ボクの名前は松原凜。それにしてもキミってすごいね。惚れ惚れするよ。思わず好きになりそうな位。」

「え？へ？」

話についていけない。にしてもかわいいなあ…じゃなくて！

「改めて自己紹介。ボクの名前は松原凜。キミと同じ、トリッパーだよ。」

「な…！」

「じゃあね。」

ど…どういふ話の流れ…好きになりそうって…あーだめだ！今日は色々ありすぎだ！今の話はなかった事にしよう。うん。

「こんにちは。」

今度はなんだよ…

「涼川さん。」

「奏でいい。こっちも伽弥と呼ぶ。」

「じゃ…じゃあ奏。どうしたの？」

「一応。話に来た。私もトリッパ。ヨロシク。」

「そうなの。ってええええええええ！？」

「サヨナラ。」

「え、ちょ、」

いなくなってる…

やぶえ。なんか頭がおかしくなりそう。とりあえず帰らないと。

「伽弥家」

「ただいま」

俺は一人暮らしだが、挨拶は習慣付けられている。

「とりあえず夕飯作るか」

俺の家はマンションの1個室なため、結構狭い。なのでキッチンで料理するには振り向かなければならないのだが…

クルッ（振り向く）

ビクッ（驚く）

カチャ（弓を構える）

パシュッ（弓を放つ）

スカッ（外す）

この間約3秒。俺はアーチェリーをやっていて、自分でもなかなかの出来だと思っぐらいには上達している。多分。使っていた弓は、デュエルディスクが変形して弓になるように作られている。矢は空気を固めて打ち出すらしく、矢は必要ない。

まあ、それはおいといて、目の前に巨獣がいる。ヤバい、デカイ、

強い、みたいな3テンポそろってそうなの。あ。人になった。

『私が見えるのですか？マイマスター。』

（うわあ！なんだこれ！頭に直接声が聞こえる！）

『貴方の頭に直接話かけています。貴方の考えは私に伝わります。』

（そうなの？ちよつと不便だな。）

『まあ、伝わらせないように念じればそうなりますよ。』

（ご都合主義だなあ・・・ってちよいまち。お前誰？）

『？ご存知裁きの龍の精霊（ ）ですよ』

（はあ！？だつてお前：）

『精霊は擬人化出来ます。』

目の前に居たのは、裁きの龍の鱗の模様のコートを着た、赤い目の俺と同じ年ぐらいの女の子だった。

（ええと、ちよつとまでジャッジメント）

『なんでしょう』

（お前は精霊だな？）

『はい』

（他に精霊はいるか？）

『貴方の、ですか？』

（ああ）

『それなら...』

『呼んだか？』

（うわっ！？）

出てきたのはゴーズだ。確かによく使うが・・・

『あまり呼び出さないようにしてくれ。忙しいんでな。カイエンがヨロシク言っていたぞ。』

（ゴーズとカイエンか：）

『あの者達も貴方の精霊です。』

（そうか：ヨロシクなジャッジメント）

『はい』

笑うとカワイイじゃないか。

『そ、そんな！可愛いなんて…』

しまった。こっちの考えている事は相手に伝わっちゃうのか。

（にしてもジャツジメントって呼びにくいな…なんかないか？）

『名前、ですか？今の所はないですけど…』

（ふむ。じゃあ…”アル”なんてどうだ？）

『アルですか…いいですね！お願いします！』

「よし、今日はねるか。」

続く？

第012終

く 出逢い く かゝらゝのお！？（後書き）

アル『何故私の名がアルになったのだ？』

作者「それはね。獣の○者のアニメは見なくて、原作しか読んでない僕が想像した王○とキミの姿が重なったからだよ。」

アル『読者は元ネタ解るのか？』

作者「さあ…次は登場人物紹介になると思うよ！次回もお楽しみに
！」

伽弥「俺は…？」

くづるふいーる

ネタバレ含む（前書き）

まずは謝罪から。

すいません！！

クリスマス間に合いませんでした・・・・・・

お正月には間に合うように頑張ります！

では、キャラ紹介です

いっつあしょうたいむ！

伽弥「あ、決め台詞それなんだ。」

篠原「プロフィール紹介なのにそれやる意味あるの？」

くぶるふいーる」

ネタバレ含む

伽弥「さあ、やって来ましたプロフィール紹介です！」

アル『して、本当の目的はなんだ？』

作者「私の頭の整理です」

アル「馬鹿がいる……」

伽弥「この小説大丈夫か？」作者「まあ、さくつとやっちゃんめし
よう」

n e m u：篠原葵

容姿：黒髪 ポニーテール

イメージとしてはバカテスの島田さん。

性格：ひたすらエロい

使用デッキ：墮天使 オリジナル 聖天使

精霊：墮天使アスモディウス

聖天使ミカエル

篠原「はい 葵お姉さんだよ」

伽弥「さあ！次に行こう！」篠原「ちよつとちよつと！？」

n e m u：松原凜

容姿：体が縮んじやった某名探偵のマンガにでてる世良さん。多
分そのもの。性格：ノリが軽い。さばりぐせアリ。族に言うボクッ
娘。

使用デッキ：デュアル植物

セラフィム（オリジナル）

精霊：椿姫ティタニアル

エンシェントセラフィムガンナー

松原「お待たせ」

伽弥「ちいーっす」

篠原「ちよつと待った！！私の出番はいも」ボクのエースモンスター

「は椿姫ティタニアル セラフイムシリーズは少し後の登場だと思
うよ」「死ねえ!!」

松原「じゃあね 本編で待ってるよ」

伽弥「ハッハッハオモシロイヤツダナ」

アル『棒読みですね』

篠原「私の出番は!?! ねえ! 私の出番は!?!」

n e m u : 涼川奏

容姿：銀髪ロング エンジェルビーツの天使さんみたいな

性格：クール。実は結構運動神経が良い。

使用デッキ：エンジェルパーミッション 冥界パーミッション（

半オリジナル）

精霊：裁きを下す者ボルテニス

冥王龍ヴァンダルギオン

断罪神ヴォルカニス

涼川「……………お待たせ」

伽弥「うす」

松原「奏ちゃんは物静かな感じがするけど「奏ちゃんは物静かな感
じがするけど本当はどうなの?」ちよつと!?!」

篠原「へへん! さっきのお返しだよ」

松原「へえ…そうなの…」

篠原「何?」

（ギロリ）

篠原「ヒヤア! な、なに?」松原「殺気のお返しだよ」伽弥「上
手い! 座布団一枚!」

涼川「はい」

伽弥「え? なに? 本当に座布団持ってるの? なんで??」

アル&松原（ゴニョゴニョ「えゝ殺気って言うのは目力で
…」『甘いです。やはり殺気と言うのは全身で…』ゴニョゴニョ）

涼川「あれは…」

伽弥「あつちはみちやだめだ」

篠原「そう言えば伽弥のプロフィールは？」

松原「あ、それはボクも気になる」

伽弥「え」

作者「はい、どうぞ！」

伽弥「ちょ、おま（ry

nemu：流川 伽弥

容姿：長髪 黒眼

性格：基本的に冷たい。本人の気まぐれで優しくなる。かもしれない。

使用デッキ：ライトロード ダークロード（オリジナル） カ

オスロード（オリジナル）

精霊：裁きの龍^{アル} 大罪の龍^{ギルティ・ドラグーン} 終末の龍^{デッドエンド・ドラグーン} 起承の龍^{ドラグーンオリジン・ドラグーン}

伽弥「ネタバレ乙！！」

作者「まあ、そう言わずに」

篠原「って言うかクリスマス終わって、クリスマス終わってるんじゃない」ちよっと！？」

松原「で、どうなるの？作者さん？」

篠原「いい加減にしないで！！」

作者「お正月には出来るように頑張ります！」

伽弥「頼むぜ」

篠原「ねえ！私の出番は！？ねえ！？」

アル『では！』

伽弥「まだ始まったばかりですが！」

作者&；一同『「「「「来年も「いつつあしうたいむ！」をヨロシクお願いします！！」」」」』

くぶるふいーる

ネタバレ含む（後書き）

はい。頑張ります。

感想貰えるように頑張ります。

あと、前書きと後書きのコーナーを創設します 意見とかあれば遠慮なく言ってください！

他の小説とのコラボも受付中です！

それではさようなら

H a v e a N i c e D a y .

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5361z/>

いっつあしょうたいむ！

2011年12月26日22時52分発行